

子どもの感性を育むために習得してほしい表現活動の実践

佐 藤 万利子

(保育学科)

I. 目的

全国大学音楽教育学会は、主に保育士、児童、幼児教育者の養成機関（大学、短期大学、専門学校等）における音楽教育に関する研究を目的とし、全国7地区の地区学会（北海道、東北、関東、中部、関西、中・四国、九州）によって組織され、各地区学会はそれぞれの特色を生かした研究活動を行っている。全国の会員は、大学、短期大学、専門学校などの教員を主として現在約500名が在籍している。毎年全国大会総会研究大会および、全国7地区学会での総会研究会を開催している。

令和6年度東北地区学会総会研究会は、宮城県が担当した。東北地区学会の会長として、総会運営および、研究会では口頭発表の他に研究演奏発表を企画、実施した。「子どもの感性を育むために」のテーマに基づき、絵本や童謡の世界を楽しむことを目的とした演奏発表では、舞台上の大きなスクリーンに絵本の画像を映し、大型絵本を開きながら演奏を行うよう構成した。

令和6年度成道会記念音楽鑑賞会

子どもの豊かな感性と表現を育むためには学生自身にも豊かな感性を獲得することが求められる。近年入学してくる本学の学生には、ピアノ初心者が6割近くおり、子どもの歌や童謡に触れる機会が少なかったとの意見が多く聞かれ、授業の中では多くの童謡や子どもの歌を教材として取り上げるように努めている。

この研究演奏発表では、バレエ音楽のくるみ割り人形（チャイコフスキー作曲）の絵本

画像と物語の読み聞かせを入れながらの発表や、今回の研究会のために作曲された作品発表（子どもの歌）、絵本「はらぺこあおむし」に曲が付けられた「歌とピアノのためのはらぺこあおむし」があり、学生が音楽に興味を持ち、保育現場での活動で実践できることを目的としている。

II. 活動内容

1 実施日時と会場

令和6年度東北地区学会総会研究会

日時：2024年9月24日(日)14:20～16:00

場所：仙台福祉プラザふれあいホール

研究演奏発表プログラム

(1) ソプラノ独唱

あめふりくまのこ、にじ、どんな色がすき

(2) ピアノ連弾

くるみ割り人形(チャイコフスキー作曲)より
行進曲、金平糖の踊り、トレパーク

(3) 作品発表 宮城純一

いいこといっぱい、くもをペットに

朝が きれいな おんどり

(4) ピアノ独奏

版画（ドビュッシー作曲）より塔、雨の庭

(5) ソプラノ独唱（ドイツ語による発表）

赤い鳥・しゃぼん玉、ゆりかごのうた

(6) ピアノ連弾

動物の謝肉祭（サン＝サーンス）より抜粋

(7) ソプラノ独唱

歌とピアノによるはらぺこあおむし

2 実施日時と会場

成道会記念音楽鑑賞会

日時：2024年12月3日(金)12:40～13:40

場所：聖和学園短期大学アリーナ

成道会記念音楽鑑賞会プログラム

(1) ソプラノ独唱

オペラ『椿姫』より乾杯の歌

『美女と野獣』より美女と野獣

『アラジン』ホールニューワールド

(2) ピアノ連弾

動物の謝肉祭より抜粋

(3) ソプラノ独唱（学生参加型）

にじ、どんな色がすき

歌のピアノのための「はらぺこあおむし」

だれにだっておたんじょうび

学生歌「この丘陵から」

Ⅲ. 活動成果

1. 令和6年度東北地区学会総会研究会

演奏発表

(1)-1 あめふりくまのこ

作詞者の鶴見は小学生になったばかりの長男が、雨の中で庭先の水の流れをじっと見ている姿を、偶然に2階から見つけてこの詩が生まれた。（日本童謡唱歌全集より）オノマトペ（擬音語・擬声語・擬態語）によってより生き生きと表現される動作の側面を丁寧に聴き手に伝えることが好ましいと思う。

子どもは水たまりに長靴で入り、ピチャピチャと水を踏んづける感触や音を視覚、聴覚、触覚で感じて面白がって遊ぶ。動作表現の歌詞「のぞいてみました」等では動作化することでイメージがふくらみ歌唱表現を豊かになるよう工夫した。5番までの歌詞には1つ1つの場面を構成した物語があり、授業では歌詞に合わせた紙芝居の作製や、6番の続きの歌詞を考えて歌唱するグループでの取り組みを行っている。

(1)-2 にじ

新沢は「子どもたちが同時に歌って音楽を

共有できるのは素晴らしい。声を発することで空気が振動する、共有する、繋がることができる。うたを歌うことで幸せになれる化学反応のようだと思う」と述べている。この曲は保育の仕事に携わった作曲者の新沢が雨が降る日に園庭に残された遊具を眺めて「おもちゃが濡れていて寂しそうだな」と思ったことがきっかけとなり生まれた。

「忘れられて濡れているシャベルがくしゃみをしていそう」「雨が上がって暖かくなったら、忘れられていたシャベルも喜ぶのではないかな」と想像したことをそのまま自然に歌詞にして、遊んだ子どもの視点から見ている作品である。

旋律も初めは低い音が並び地面の近くを見ているが、「見上げてみれば」で徐々に視点が上がり「ラララ～にじが」で空高く放物線を描くような音程が虹そのものを想像させ、立体的に描かれたように旋律が動く。歌詞に合わせて子どもの視線の向かう先を想像し動作化しながら表現すると、気持ちの動きが見えて曲想が豊かになるように演奏した。学生の歌唱表現は音程やリズムが正確であることよりも、「このうたは子どもたちにとってどうか？」と考え振り返ることが大切だと思う。

(1)-3 どんな色がすき

歌詞の「どんな色がすき?」「あか」のやり取りでは、子どもたちとうたから応答的な関わりが広がる。子どもが「何を感じているか」を共感し、子どもの音楽表現の芽生えや成長を捉えてほしい。うたの活動を通して「歌うことは楽しい」、「自ら表現することの楽しさ」を伝えることが大切だと思う。偶然にも3曲の童謡にはスキップといわれる付点のリズムが多用されている。このリズムには、歌詞の言葉の配分と身体表現の関わりが深く、感性を育んでいくことに繋がると思う。

(2) 作品発表

いいこといっぱい、くもをペットに、
朝がきらいなおんどり

子どもも大人も楽しく歌えるようなユーモラスな歌を作りたいと考え、岩手県盛岡市在住の詩人である小野寺悦子氏の数冊の詩集から、イメージに合いそうな詩を3編選で作曲された。なるべく自然に歌えるように、言葉のアクセントは日本放送協会編『日本語発音アクセント辞典』を参考にし、伴奏は現場の先生や養成校の学生も弾くことを想定し、歌を生かしつつ、シンプルで弾きやすい曲にした。2024年8月作曲

(3) くるみ割り人形

チャイコフスキーはこのバレエ音楽にレオポルト・モーツァルト（1719～1787）の《おもちゃの交響曲》やベルンハルト・ロンベルク（1767～1841）の《子供の交響曲》の効果を使おうとし、パリでラッパや太鼓、ガラガラ、カッコウ笛、ウズラ笛、シンバル、ラビットドラムなどを買い込んだと残されている。くるみ割り人形は終始明るく和やかな気分にあふれており、しかも童話的世界と有機的に結びつけられている。

(4) 版画より塔、雨

『塔』は実際には訪れたことのないはるか遠い国へと思いを巡らせ作曲された曲である。子どもたちも自分を取り巻く環境の外にある広い世界や知らないことに憧れや希望を膨らませながら成長してほしい。『雨』には曲中に「フランス民謡」が散りばめてあり、人が成長過程で接した音楽には、それぞれの思い入れや懐かしさがあることを伺い知ることができる。幼児教育において保育者には幼児期に接する音楽や環境が、いかに子どもの心に残るかを意識して携わってほしい。

(5) 赤い鳥、しゃぼん玉、ゆりかごのうた

「童謡」とは、広義には子ども向けの歌、または子どもが歌う歌を指す。大正時代以降、

子どもに歌われることを目的に作られた文学作品とそれに作曲が施された歌曲を指すとある。これらの3曲も大正時代に作られ、今日まで長く愛唱されてきた。今回の演奏発表では、日本を代表する詩人の北原白秋、野口雨情の詩のドイツ語訳を試みた。ドイツ語の抑揚と音楽的な拍の強弱の一致、音符への歌詞の配置等を考慮し、自然で子どもたちが歌いやすい訳詞を付け、世界の子どもたちが日本の童謡を知る端緒となれど考える。

(6) 動物の謝肉祭より

動物のイメージを音楽で表現した楽曲である。サン＝サーンスの「動物の謝肉祭」は、動物たちの特徴や性格をユーモラスに表現している絵本があり、演奏時にスクリーンに投影して、映像でも楽曲を想像できるようにした。さらに朗読を挟むことにより、より深く楽曲を深く想像できるようにした。

子どもたちと一緒にこの楽曲を鑑賞する際には、音楽に合わせて踊ったり、動物の動きを模倣したり、体全体を使って表現することが想像され、楽曲の面白さや楽しさをより子どもたちに感じてもらえど考える。

(7) 歌とピアノによる「はらぺこあおむし」(エリックカール原作・もりひさし訳詞・新沢としひこ作曲・湯川徹ピアノ用編曲) 絵本の中の文がそのまま歌詞となり、旋律が付けられている。物語の場面によって速度や曲調に変化があり、繰り返し同じ言葉が並ぶ場面では、簡潔で覚えやすい旋律が繰り返される。

2. 成道会記念音楽鑑賞会

(1)-1 ソプラノ独唱オペラ『椿姫』より乾杯の歌では、日頃学生が接することの少ないクラシックオペラの一場面で、生演奏の魅力を感じ音楽に対する意識が高まることを期待して選曲した。

(1)-2、3 ディズニー映画の作品より「美女と野獣」と「ホールニューワールド」は保

育学科の「子どもと音楽」の授業教材として使用している曲を選曲した。

(2) ピアノ連弾では動物の謝肉祭（サン＝サーンス）全14曲の中から聴きやすく馴染みのある5曲を選定し、本学「ピアノⅠ・Ⅱ」の授業を担当する非常勤講師5名による連弾形式で演奏した。登場する動物の説明と物語の朗読を楽曲の間に挟み演奏動物を関連付け想像できるよう試みた。

(3)-1、2 ソプラノ独唱（学生参加型）では音楽の授業教材で使用している子どもたちの定番曲の「にじ」と「どんな色がすき」では、代表学生がペープサートを使って舞台上から好きな色を問いかけて、学生全員が楽しく歌に参加できるような演出を行った。

(3)-3 歌とピアノのための「はらぺこあおむし」は、音楽の授業で教材楽曲として取り入れ、絵本「はらぺこあおむし」の読み聞かせの実践を並行して行っている。旋律の繰り返しに合わせて、あおむしが様々な果物を食べる場面では、付点のリズムが多用されリズムカルに展開される部分で、保育学科1年生が合唱で参加した。音楽鑑賞会では舞台脇の大型スクリーンに「はらぺこあおむし」の動く画像を投影し、音楽と映像を融合させ楽しめる効果をねらいとした。

(3)-4 「だれにだっておたんようび」は曲の途中で、「みんなは何月に生まれたのか、大きな声で返事をしてね」との問いかけがあり、「1月生まれー、はい」と1月から12月まで学生が手を挙げて参加できるように促した。

(3)-5 学生歌「この丘陵から」は保育学科の1年生「子どもと音楽」の授業で、毎年7月から合唱曲として練習に取り組んでいる。また、毎週火曜日の昼休み時間に「この丘陵から」のCDを学内放送で流している。

3. 入学前音楽力習得度と音楽鑑賞会感想

保育学科1年生の前期音楽関係授業が開講される前に、音楽力習得度調査と、成道会音楽鑑賞会後にアンケート調査を行った。

(1) 対象：保育学科1年生67名

(2) 時期：令和6年4月、令和7年1月

(3) 内容

読譜力、ピアノ経験、入学前のピアノの経験、中学校、高校での音楽関係の部活動経験、成道会音楽鑑賞会後の感想

(4) 手続き：Google フォームを使用して解答を求めた。

(5) 倫理的配慮：対象者に調査への協力は任意で、回答内容の個人情報は特定されないことを伝えた。

【音楽習得度調査】

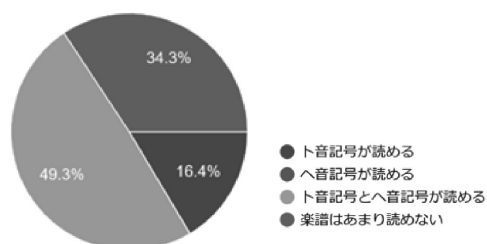


図1 設問1 読譜力について

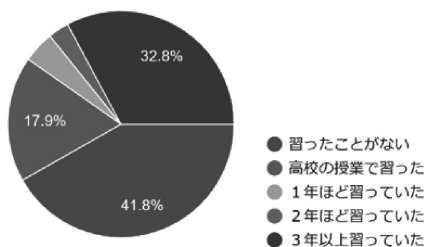


図2 設問2 入学前にピアノを習った経験

設問1の「読譜力」の回答から、「ト音記号が読める」が16.4%、「ト音記号とヘ音記号の両方が読める」が49.3%、「楽譜があまり読めない」が34.3%で、楽譜を読むことが

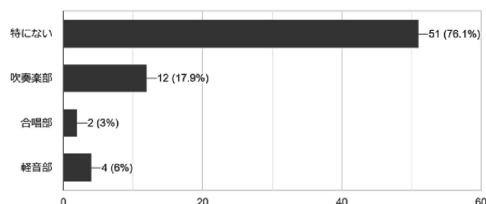


図3 設問3 中学・高校での音楽関係部活動の経験

苦手な学生が半数以上いることが分かった。

設問2の「ピアノを習った経験」では、「入学前にピアノを習ったことがない」が41.8%、「高校の授業で習ったことがある」が17.9%、「3年以上習った経験がある」は32.8%の回答があった。

設問3の「中学と高校での音楽関係の部活動」では、「吹奏楽部」が17.9%で12名、「軽音楽部」が6%の4名、「合唱部」に所属していた学生が3%の2名で、「音楽関係の部活動の経験が無い」と回答した学生が76.1%の51名で最も多かった。

【成道会記念音楽鑑賞会の感想】

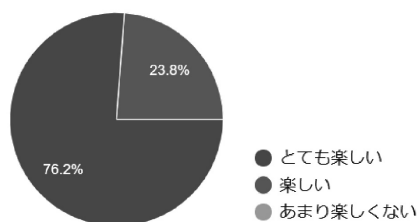


図4 設問4 音楽鑑賞会の感想

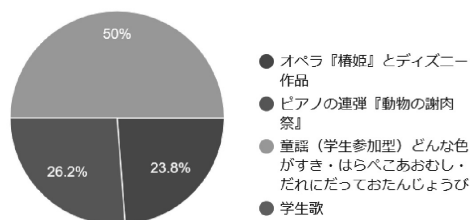


図5 設問5 印象に残ったプログラム

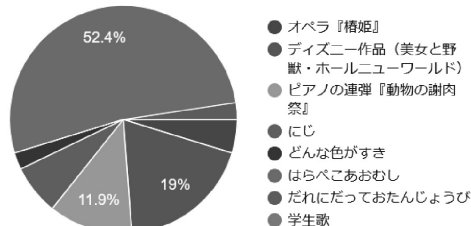


図6 設問6 一番楽しいと感じた曲

成道会記念音楽鑑賞会終了後の調査では、設問4の感想で、「とても楽しい」が76.2%で「楽しい」は23.8%との回答が得られた。

設問5の「印象に残ったプログラム」から、学生参加型の童謡が50%、ピアノの連弾が26.2%、オペラ『椿姫』とディズニー作品が23.8%、との回答があった。

設問6の「一番楽しいと感じた曲」では、「はらぺこあおむし」が52.4%、「ディズニー作品（美女と野獣・ホールニューワールド）」が19%、「ピアノの連弾（動物の謝肉祭）」が11.9%との回答が得られた。

【一番楽しいと感じた曲を選んだ理由】

- ・オペラの曲を実際に見ることは初めてだったので、とても貴重な経験ができた。
- ・歌声が綺麗で知っている曲が多く、心に響いた。
- ・皆が一体になって一つの作品を仕上げた感じがしてこの学校に入学できて良かったとまで思えた時間を過ごせた。
- ・ディズニー作品が好きだから。
- ・動画と共に、みんなで一緒に歌って参加できたことがとても楽しかった。

【感想の自由記述】

- ・オペラや先生方のピアノ演奏を生で見て、聴いて、感じる事ができ、とても楽しかった。改めて音楽の良さや美しさを感じる事ができた。学生も参加する機会があったことで、より盛り上がった。

- ・ほとんど全部知っている曲で、一緒に歌って参加する曲もあったので、飽きることなくとても楽しめた。先生の歌声やピアノの連弾はとてもきれいで、私も上手になりたいと思った。
- ・本当にとても楽しかった。また是非企画してください。
- ・なかなか聞くことが出来ないような音楽を聴くことが出来て、貴重な時間になった。

【音楽鑑賞会への要望】

- ・クラシックが聴きたい。
- ・またオペラを見たい。ディズニー系のみんが知っているようなピアノ演奏を聴いてみたい。
- ・今回のような、みんなで参加できるもの、みんなで歌えるような曲を多く歌いたい。
- ・資料の中に歌詞があったら分かりやすい。

Ⅳ. 今後の課題

子どもの感性を育むために表現、そのために習得してほしい表現活動が体験できるように考えて授業内容を検討し実践している。音楽教育によって育まれる感性は、学習効果も向上すると考えられる。2008年に公示された学習要領では、「表現及び鑑賞活動を通じて音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を養い、豊かな情操を養う」と示されており、「学校教育は知性と感性の調和の取れた人間の育成を目指しており、ここに音楽教育における感性育成の意味と目的がある」と述べている。保育現場で子供が主体的に楽しく音楽活動ができるような関わりと音楽表現を、学生が実践できることを期待している。しかし近年入学してくる学生の中には、楽譜が読めない学生が3割強、音楽関係の部活動の経験がない学生が7割を超え、音楽を体験する機会が少ないことが推察される。子どもの感性を育む

ためには、学生自身が感動し楽しめる音楽体験を、本学在学中に積み重ねることが必要で、その機会を提供したいと考える。

Ⅵ. 文献

- 明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌 歌唱童謡 140年の歩み、(2013) 全国大学音楽教育学会編著、音楽之友社
- 千蔵八郎 (1996) ピアノ音楽辞典
- マルグリット・ロン(1969)ドビュッシーとピアノ曲
- 文部科学省 (2008)「小学校指導学習要領解説 音楽編」教育芸術社